

淡江大學八十七學年度日間部轉學生入學考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

本試題共

頁

*勿於本題目紙上作答，否則不予計分。

*注意題目說明。

一、將下記の成語、格言、名句譯成日文（不用抄題、譯文的漢字部分注上仮名。配分：每題各3分，「振り仮名」部分1分，日譯部分2分，共15分）。

- (1) 桃李不言，下自成蹊。（史記、李將軍伝論贊）
- (2) 良藥苦於口。（韓非子、外儲説）
- (3) 青出於藍，而青於藍。（荀子、勸学）
- (4) 百聞不如一見。（漢書、趙充国伝）
- (5) 工欲善其事，必先利其器。（論語、衛靈公）

二、將下記日文「ことわざ」の漢字部分注上仮名，並譯成中文（要抄題、配分：每題各3分，「振り仮名」部分1分，中譯部分2分，共15分）。

- (1) 堪忍袋の緒が切れる。
- (2) 遠くの親戚より近くの他人。
- (3) 捕らぬ狸の皮算用。
- (4) 門前の小僧習わぬ経を読む。
- (5) 武士道と云ふは死ぬ事と見付けたり。

三、將下記文章譯成中文。（要抄題、日文題目的漢字部分注上仮名、配分：每題各12分，「振り仮名」部分4分，中譯部分8分，共48分）

(1) 「顔が広い」ということは、顔幅の広いのではなく、世間の付き合いの広いこと、付き合いが広ければ、方々へ顔を出すから、自然にその顔が広がるのである。顔は個人の看板のようなもので、お互いに同志識別するのも顔による。うれしいことも悲しいこともいやなことも、まず第一に顔に現れる。喜怒哀色に現れぬというのは、よほどの英雄であって、恥ずかしい時にはだれでもぱっと赤くなる。人の感情は顔に現れるように作られているのである。（芳賀矢一、「身体に関する言い回し」より）

(2) 今日の世界では、社会の経済計画と大学の教育計画が併行し、「人材の発見と養成」が数年後における社会の繁栄をめざして展開される。その根底にあるものは、大学は社会に役に立つという考え方であり、事実工業化された先進・中進の国々で大学は社会の発展をうながす上で大きな役割をはたしている。けれども、あまりにも社会に密着し、これと歩みをともしする大学は、社会とともに栄え、これとともに亡びる。安直に役立つ大学は役には立たない。教養がもつ積極的な意味の一つは安易な実用性の否定にある。

（永井道雄、「教養とは何か」より）

淡江大學八十七學年度日間部轉學生入學考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

本試題共 2 頁 22

(3) 他地域の異文化からの影響を排除した日本独自の文化的伝統というようなものは、単なる観念の産物としてはあり得ても、歴史に照らして見るとき、それは存立し得ない。およそ文化事象については、特定地域に固有でそれ自体として独立なものあり得ず、他地域の異文化との交流と交配の中で形成されてくるのであるから、純粋種ではなくて雑種こそが文化本来の相なのである。(広神清、「日本における神道理論の形成」より)

(4) 日本の場合、北九州と朝鮮南端の間には北から対馬、壱岐の二つの島がある。これらの島々は、文字通り「島伝い」を可能にすると同時に、時として朝鮮海峡、対馬海峡、更に玄海灘の荒波が、両国間の海上交通を極めて困難なものにしてきたのである。この種の地域的距離は、大陸からの異系異族の侵入を困難なものにし、離島日本の安全を守るに適していた。又、ユーラシア大陸への交渉を適宜に調節する安全弁ともなっていた。必要とあらば、この距離をこえて出向き、又必要とあらば、この距離を自然の障壁として内に閉じこめることを可能にした。(戸田義雄、「日本文化の根元」より)

四、下記「川柳」是数年前獲得日本「サラリーマン川柳大賞」的作品，請將其譯成中文，並以中文說明其幽默性、及諷刺性。不限字數（配分：6分，中譯部分2分，中文說明部分4分）

まだ寝てる
船って見たら
もう寝てる

五、將下記文章譯成中文，並以日文回答下列問題，不限字數（要抄題、日文題目的漢字部分注上仮名、配分：16分，「振り仮名」部分3分，中譯部分5分，問答部分8分）

1950年代のはじめ、アメリカにマッカーシー旋風がふきまくり、研究の自由がおびやかされたとき、シカゴ大学の著名な文化人類学者レッドフィールドは、大学を“危険な制度”とよんだが、彼の言葉どおり、大学は社会にとって基本的には“危険”であり、危険であることをやめるとき、その本質を失うのである。

(永井道雄、「教養とは何か」より)

問①：大学は、なぜ“危険な制度”とよばれ、また社会にとって基本的には“危険”であるといわれているのであろうか。

問②：なぜ、大学は危険であることをやめるとき、その本質を失うのであろうか。